



# 危機の中に癒しを求めて

2014年12月**26**(金)**27**(土)

場所：東京バプテスト神学校  
(茗荷谷キリスト教会内)

講師：**齋藤友紀雄**先生  
キリスト教カウンセリングセンター研修所長

《プログラム》講義Ⅰ－自殺危機①－聖書と教会における自殺理解 講義Ⅱ－自殺危機②－精神保健と牧会的諸問題 講義Ⅲ－災害と被害におけるこころのケア 講義Ⅳ－危機とグリーフ・ワーク 講義Ⅴ－死をいかに生きるか  
テキスト ①齋藤友紀雄「自殺危機とそのケア」(キリスト教新聞社1,296円税込) ②齋藤友紀雄他「災害とこころのケア」(キリスト教新聞社1,296円税込) 参加費 本科生：受講料 12,500円＋共益費5,000円＝17,500円 聴講生(及び一般の方)：受講料 15,000円 \*通信は+5,000円(通信手数料)

**2015年度前期「組織神学Ⅲ」**

**木村一充先生(大泉バプテスト教会牧師)**が担当して下さいます

今、「世の光」でローマの信徒への手紙の“聖書研究”を連載している木村一充先生(大泉バプテスト教会牧師)が「組織神学Ⅲ」の課目を担当して下さることになりました。木村先生は西南学院大学神学部を1984年に卒業し、神戸バプテスト教会副牧師に就任、その後1988年から大泉バプテスト教会協力牧師に就任し、2009年に同教会牧師に就任し現在に至っています。

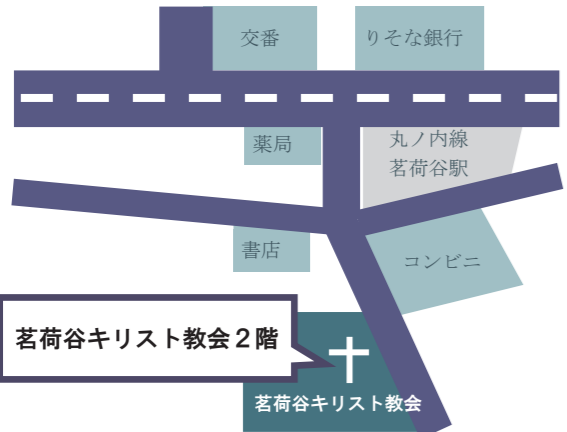
木村先生はカール・バルトの教会教義学から「和解論」「キリスト論」を中心に講義して下さることと思います。今日の教会(牧師・信徒)にとってとても大切な学びとなります。

**2015年度前期「キリスト教史」**

**戒能信生先生が講義くださることに決定**

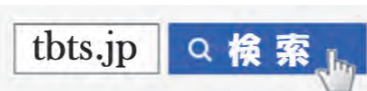
戒能信生先生は、日本基督教団東駒形教会で牧師としてお働きの傍ら、日本聖書神学校、農村伝道神学校の講師として「日本キリスト教史」等の科目を講義されています。東京バプテスト神学校においても2006年から「キリスト教史Ⅲ」を担当していただいておりますが、来年度も講義くださるとの連絡をいただきスタッフ一同喜びに満たされています。

戒能先生の講義は日本プロテスタント・キリスト教史で、明治、大正、昭和の時代にキリスト教徒として生き抜いた先達の第一手資料に触れながら講義をして下さいます。過去先生の講義を受けた学生は先達の信仰、生き様に触れ、キリスト者として大いに励まされたとの感想が寄せられています。



## 東京バプテスト神学校

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内  
TEL: 03-3947-5141 FAX: 03-3947-5145  
E-mail: seminary@tbts.jp



地下鉄丸ノ内線茗荷谷(みょうがだに)駅下車1分  
駐車場の用意はありません。車での来校はご遠慮ください



## 東京バプテスト神学校ニュース

Tokyo Baptist Theological Seminary news  
〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 ☎03-3947-5141 メール seminary@tbts.jp

### 今号のトピックス

- 1,2P 東京バプテスト神学校デー 2Pスタッフ紹介 3P後援会だより 献金実績
- 4P冬期公開講座案内 講師紹介

### 第3回東京バプテスト神学校デー

～模擬授業で神学校を体験～

今年で第3回目を迎えた東京バプテスト神学校デーが、去る10月4日(土)午後1時から4時30分まで、川崎バプテスト教会を会場に開かれました。

今回の神学校デーは、神奈川連合と神学校の共催で開催されましたが、実際には、企画、準備段階から、プログラムの作成や講師依頼、会場での奉仕までのほとんどを神奈川連合の皆さんが担って下さいました。

当日は、土曜日の午後にもかかわらず、北関東、東京、神奈川連合の諸教会・伝道所から100名近くの方々が参加して下さい、神学校デーを楽しむことができました。

今年のテーマは「来て・見て・知ろう・神学校～あなたも一日神学生～」でした。大学のオープンキャンパスをイメージさせるような模擬授業が行われ、参加者はまさに神学生気分を味わえるといった、体験型神学校デーとなりました。

開会礼拝ではTBTS Choir(東京バプテスト神学校教会音楽科聖歌隊)による賛美「主と共に歩む」の後、坂元俊郎先生(湘南台教会牧師・神奈川連合派遣神学校理事)がヨハネによる福音書15章26節から「学ぶ喜び、従う喜び」と題してみ言葉を取り次いで下さいました。

開会礼拝でみ言葉に燃やされた参加者たちは、短いオリエンテーションの後、いよいよ今回の神学校デーの目玉とも言える模擬授業へと向かいました。

模擬授業は①「神学入門」(北島靖士先生・八王子めじろ台教会協力牧師)、②「指揮法」(山中臨在先生・浦和教会牧師)、③「教会学校について語り合おう」(中田義直先生・市川大野教会牧師、矢野由美先生・千葉教会教育主事、坂元幸子先生・藤沢教会牧師)の3講座がそれぞれ2回ずつ開かれ、参加者は3講座の中から2講座を選んで受講することができました。

今回の模擬授業は一コマ30分という限られた時間でした(神学校の実際の授業は一コマ2時間で行われています)が、この短い時間の中で、講師の先生方が神学の楽しさや指揮の重要性や指揮の実際、教会学校で大切にしたいことなどをアピールして下さいました。

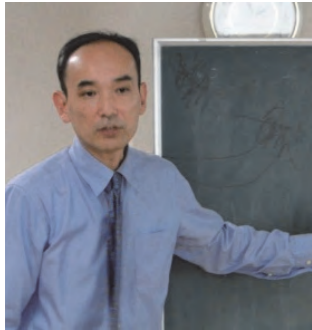
アッという間の模擬授業でした。しかし、参加者の皆さんは、実際の神学校授業を体験できたことで、今まで知らなかった神学校を垣間見ることができたことでしょう。



開会礼拝でメッセージを語る坂元俊郎牧師



神学入門」の北島靖士先生



「指揮法」の山中臨在先生



会衆をも巻き込んでリードする菊地るみ子先生

模擬授業の後は、これも今回の目玉の一つですが、教会音楽科の公開授業が始まりました。菊地るみ子先生（大井教会音楽主事）による合唱の授業を見させていただきました。礼拝堂講壇に菊地るみ子先生が立ち、聖歌隊席に音楽科専攻科生・本科生が座っています。会衆席に背を向けて立つ菊地先生。聖歌隊席の学生に向かって授業を開始します。会衆席からは授業の一部始終を見ることができます。楽譜を手渡された学生たちは、初見の楽譜を菊地先生の指導のもとに歌い上げていきます。

菊地先生の見事なリードは会衆席にまでおよび、いつしか学生、会衆が一体となって賛美の歌声が一つに合わせられていきました。私は、教会音楽科の学生になってしまったような錯覚に陥りました。

教会音楽科公開授業の熱気も冷めやらぬ中、プログラムは終わりに近づき、卒業生、在校生、理事、教師、スタッフの紹介となりました。

## 「卒業生は前に出てきて 下さい、次に在校生は前 に出てきて下さい」

のアナウンスに次々と前に出てくる神学校関係者。最終的には講壇上には収まりきれずにあふれ出してしまいました。総勢40名を越えていました。参加者の約半数の方々が神学校と関わりがあることが分かり、改めて東京バプテスト神学校が3連立であることを強く実感しました。



最後にこの4月から新しく後援会の会長になられた秋山信夫先生（上尾教会牧師）から、後援会会則についての説明とさらなるご支援のお願いがありました。

教育館で茶菓と交わりの時をもち、こうして第3回東京バプテスト神学校デーは終了しました。今回は小学生の参加もあり、子どものプログラムを担当して下さいました。今回は小松村校長先生、お世話になりました。また、神学校デーに参加して下さいました方々一人一人と共に、今回の企画、推進に積極的に取り組んで下さった神奈川連合の皆さんに心から感謝申し上げます。

（学生主任・矢野 満）



## 緑の下の力持ち、林雄植さんの一日



林 雄植（イム ウンシク）さんは、神学校事務職員として毎日茗荷谷に勤務しています。

イムさんの仕事は多岐にわたっています。毎日、学んでいる学生の方々のために、お茶のセットをし、いつでもコーヒーやお茶が飲めるように準備します。それからが大変です。当日、授業の講義資料を印刷し、受講者に配布します。講師の先生方からメールを確認し、いろいろな指示に対応します。

通信受講生のために当日の資料をPDFデータに変換し、通信生のためにホームページに掲載しま

す。またライブ受講生のために、カメラやビデオ、マイクなど多数の機材をセッティングし映像配信をします。その合間を縫って授業料の振り込みを確認し、受講生の登録情報管理を行います。その他理事の方々の交通費の計算、支払や、印刷機消耗品の確認や発注、パソコン操作に困っている校長や事務長を助けたり一人で何役もこなす、神学校を支えています。

イムさんは牧師としての召しを受け、東京バプテスト神学校で学び、本科を2011年3月に卒業しています。今現在神学校の事務職員として働きながら次のステップを考えています。どうぞイムさんをお祈りに覚えてください。



## もう一人の献身者になろう！ 会長 秋山信夫



私の牧師室には、デューラーの描いた『祈りの手』という絵が飾ってあります。私は、この絵に何度も励まされ、祈ることを教えられてきました。この絵には素敵なエピソードがあります。絵描きを志す友人が、デューラーを一人前の画家にするために鉱山で働き、仕送りを続けました。そのお蔭で、デューラーは立派な画家になるのですが、友人はその仕事がたたって、手を悪くし、絵筆も握れなくなりました。デューラーはその事を知った時、友人に、「お願いだ。君の手を描かせてくれ。君のこの手のお蔭で、今の僕はあるんだ。君のこの手の祈りで、今、僕は生かされているんだ！」そう言って、自分のために犠牲を払って働き、祈り続けてくれた友人の手を、彼はキャンバスに焼き付けたのです。それが『祈りの手』です。私も、私のために祈り続けてくれた友人の手があったからこそ、神学校で学ぶことができ、牧師になることができました。もし、友人の祈りの手がなければ、私は、牧師として今日まで立ち続けることはできなかったでしょう。献身の背後には、必ずと言ってよいほど、「もう一人の献身者」がいるのです。それは、献身者を祈りの手で支えるという「もう一人の献身者」のことです。後援会は、その「もう一人の献身者」になることです。後援会は、直接的には神学生を支援するわけではありませんが、伝道者養成にあたっている東京バプテスト神学校を支援するために、たくさんの祈りの手が必要としています。その祈りの手があるからこそ、教会に仕える献身者が生み出されていくのです。ですから、皆さまにも、その「もう一人の献身者」になっていただきたいと願っています。

ここで、後援会の働きを紹介いたします。今年度、後援会は神学校への支援を充実させるために、「会則」と「後

援会リーフレット」を作りました。会則は、9月の理事会で承認していただきましたので、早速、神学校デーで紹介し、後援会リーフレットにも掲載しました。会則で、後援会の目的や活動を明文化したことによってがみって、多くの方に理解していただき、後援会に加わって一緒に東京バプテスト神学校を支えていただきたいと願っています。「後援会リーフレット」は5000部作りしましたので、連盟の定期総会で配布し、又、神学校ニュースと一緒に、諸教会に配布いたします。是非、ご覧ください。

後援会は、今までと違う点が三つあります。一つ目は、役員会を作り、そこで活動を推進していきます。会則やリーフレットも役員会の意見を基に作りました。役員は、会長は私、秋山信夫（上尾教会牧師）、副会長は石垣茂夫（大久保教会副牧師）、総務は山本龍一郎（大秦野教会牧師）と神学校事務局長の川勝高宏（相模中央教会員）の4人です。この役員のためにもお祈りください。

二つ目は、会費と献金を区別したことです。会費は年額、1口5,000円とし、何口でも歓迎します。献金はいつでも自由に捧げていただくことができます。会費を納めていただいた個人会員には、神学校のすべての講座は半額で受講でき、又、神学校の図書は自由に利用できる特典があります。

三つ目は、年一度、総会を開くことになりました。後援会の活動は、個人の力だけではできません。個人会員になってくださった方々と一緒に後援会を作り上げ、神学校への支援の輪を広げていきたいと思っております。後援会に入会して下さる方が起こされることを期待しています。ご一緒に、祈りの手、支援の手を合わせていきましょう。

## 2014年度上期の神学校献金（教会・集会）実績

神学校献金（2014年4月～2014年9月末）24件 合計1,041,601円

（東北）三沢バプテスト・キリスト教会（北関東）上尾キリスト教会、日本バプテスト前橋教会、飯能バプテスト教会、ふじみ野バプテスト教会（東京）篠崎キリスト教会、渋谷バプテスト教会女性会、蓮根バプテスト教会、富里キリスト教会、仙川キリスト教会、千葉・若葉キリスト教会（神奈川）横浜JOYバプテスト教会(2)、相模中央キリスト教会、湘南台バプテスト教会、港南めぐみキリスト教会（関西）姫路城西キリスト教会（集会）南ブロック女性会、東ブロック女性会南大会、北ブロック集会、神奈川連合壮年会、北関東地方連合壮年会、入学礼拝席上献金、夏期講座開会礼拝席上献金

## 2014年度上期の後援会会費・献金（個人）実績

後援会会費・献金者名（2014年4月～2014年9月末）29名・33件 合計205,000円

（敬称略）伊藤真知子、越智満、奥田厚子、奥田稔(2)、岡村正二(2)、金香泰誠、古家克務、高柳美枝子、今橋哲郎(2)、秋山信夫・純子、小柳隆司、常廣澄子、森田敏夫、神山武、水口仁平、杉田啓太、大矢公子、滝川佳秀、鳥山美恵(2)、鳥飼好男、辻真理子、鶴野博子、渡部富夫、柏いづみ、氷川英俊、富田なおみ、北島靖士、矢野由美、鈴木知子